

通学区域制度弾力化のアンケート結果の報告等について

弾力化制度の経緯

- ・岡山市では平成17年度から教育改革の一環として実施。
- ・子どもの個性や適正に応じた教育を受けさせたいという保護者の希望に沿った学校選択を可能にするとともに、特色ある学校づくりや学校の活性化を図ることを目的とする。
- ・平成22年度に地域とのつながりの観点から受入枠について見直しを行い、一定の制限を行っている。

H28アンケート状況(抜粋)

Q. 制度の存続について

	小学校保護者	中学校保護者	連合町内会長	小学校長	中学校長
続けた方がよい	70.7%	75.7%	28.0%	33.3%	32.4%
廃止した方がよい	1.9%	5.5%	58.5%	55.6%	54.1%
分からない	25.5%	17.4%	9.8%	11.1%	13.5%
無回答	1.9%	1.4%	3.7%	0.0%	0.0%

・「続けた方がよい」を選んだ理由としては、「通学距離」の問題を挙げた割合がいずれも高く、「学校の特性で選ぶことができる」という声も多かった。

・「廃止した方がよい」を選んだ理由としては、全ての対象者で「地域とのつながりができてよい」という声が多かった。

Q. 地域とのつながりが薄れていると感じますか

	未就学児保護者	小学校保護者	中学校保護者	連合町内会長
感じる	44.3%	49.4%	40.3%	74.3%
感じない	38.8%	37.2%	50.3%	23.2%
分からない	15.6%	12.1%	8.6%	2.5%
無回答	1.3%	1.3%	0.8%	0.0%

※上記表の回答率については、実際のアンケートでは「大変感じる」「やや感じる」と答えたものの和を「感じる」と表記し、「あまり感じない」「感じない」の和を「感じない」と表記している。

・保護者、地域それぞれが子どもと地域との関わりが薄れているという声が多く、小規模校の地域ほどその傾向は強かった。

・小学校ではつながりの意識が強いが、中学校ではそこまで強くはない。

・つながりが薄くなる理由としては、「居住地域の行事に参加しない」という声が多かった。

(※詳細は別紙の市民文教委員会資料2-2を参照)

意見聴取会の主な意見

保護者代表

- ・地域で育てる観点で考えると、制度はなくてもいいのかなと思う。
- ・他の制度(指定学校変更)の周知については分かりやすくしてほしい。
- ・学童保育が充実していたり、環境が良いところに子どもを預けたいという保護者は増えてきていると思う。

地域代表

- ・小規模校では1人2人の増減が学校の存続に大きな影響を与える
- ・小学校区では特に「地域の子どもは地域で育てる」という考えに反する。

学校代表

- ・中学校では部活動を子どもが選択する意思を尊重する必要があるし、部活動に参加するため地域行事に参加する機会は少ないのかもしれない。

- ・いじめ等は配慮する必要がある。

有識者

- ・保護者はサービスを受ける側であるため存続について賛成が多いが、地域・学校側は教育を行う側であるため、地域とのつながりについて課題意識を持っている人は多いと思う。

- ・地域協働学校で学校の特性が出るほど合わない子が出てくるのは当然で、上手くいっているなら中学校では開くべきでは。

- ・子ども本人が「あの学校へ行きたい」と思うようになるのは中学校の入学あたりからで、中学校では入りたい部活動を選ぶ意思を尊重する必要もある。小学校を廃止して中学校は継続するというのは案としては柔軟だと思う。

- ・廃止した場合でも、他の制度でいじめなど個別の事情・要望に応えることはできる。

- ・通学距離の合理化や安全面の確保については、弾力化とは別のものとしても検討していく必要がある。